

臨床研修医募集案内

<http://www.tokyoh.johas.go.jp/>

東京労災病院臨床研修基本理念

「命の輝きを共有できる病院」という病院の理念のもとに、大田区大森・蒲田・羽田地域の中核病院としての、また労災病院として培ってきた勤労者医療を実現する病院としての医療機能を活用し、臨床研修医に対し、医師に要求される基本的臨床能力を修得させる。

患者、勤労者の健康上の諸問題に的確に対応できる医師となるよう、人格の涵養を促し、医療が果たすべき社会的役割を認識し、患者の抱える医学的および職業・家庭生活上の問題に総合的に対応できるプライマリ・ケア診療能力と判断力・調整能力を修得させる。

診療科間のみではなく、看護部門、コ・メディカル部門との連携・協力によるチーム医療の必要性を理解し、それを積極的に実践し得るコミュニケーション能力を修得させる。

以上の修得目標を確実に実現するために、病床規模、指導医数からみて比較的少人数の研修医を採用し、研修医一人一人の存在が院内に広く周知され、病院全体で研修医を育てるという文化を醸成する。



**初期臨床研修の2年間の鍛錬が医師としての将来を決めます。
ぜひ私たちと一緒に学び働きましょう。**



東京労災病院
院長 杉山政則

臨床医は高い専門性のみならず、オールラウンドな臨床能力も兼ね備える必要があります。初期臨床研修は広い範囲の基本的診療能力を身につける大事な時期です。

優れた臨床医に求められる条件はart、science、humanityであると考えています。臨床医なのでもちろん高い臨床技術・技能が必要です。また深い医学知識を得て、科学的探究心を持つことも重要です。豊かな人間性も必須の条件です。最近ではプロフェッショナリズムの観点から語られることも多く、高い倫理観、責任感、誠実性、利他主義、積極的志向性、自律性、自主性、常に学び・教える態度が求められます。

このような医師としての基本姿勢を身につける2年間の初期臨床研修は非常に重要です。逆に言うと、この時期を逃すと優れた臨床医として成長していくことは困難です。

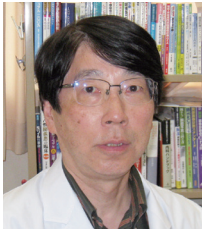
私たち指導医は人を育てること、特に優秀な医師を育てることを、義務というよりも喜び、権利であると考えています。研修医のみなさんを厳しくも温かく指導しながら、共によりよい医療を目指していきたいと考えています。当院の理念は「命の輝きを共有できる病院」です。患者さんの健康・生命を改善し維持することをめざすのは当然ですが、職員全員の命の輝きもめざしています。職員の健康を守り、働いて楽しい、働きがいがある病院を目標としています。

私たちは、ぜひ意欲にあふれる初期臨床研修医の皆さんと一緒に学び働きたいと思っています。

卒後臨床研修
管理委員長
呼吸器内科部長

戸島 洋一

出身大学／千葉大学



●どのような研修医を求めているのか

私たちが求める研修医とは、仕事に情熱（パッション）をもって取り組めること、他者への共感や思いやり（コンパッション）

のある行動ができること、このパッションとコンパッションを両方持てる人です。これは長い医師人生でずっと必要なことでもあります。

映画監督・宮崎駿の名言に「大事なことはたいてい面倒くさい」というのがあって、これは医師の仕事にも当てはまります。面倒でもやるべきことをやる人、こういう研修医を求めます。

●どのような医師になってほしいのか

医師としてのスタートを切るこの2年間

はあなたの一生を左右するかもしれません。様々な患者や医師、コメディカルと出会い、時には嬉しく、誇らしく、またときには辛いこともあるでしょう。私は医師として勤勉であり、謙虚さをもった人になってほしい。患者に対して上質な医療を提供するだけでなく、自分の家族や医師仲間や自分自身への配慮も忘れない人になってほしい。

●研修医との毎日は我々の喜び

研修医とともに診療や勉強をすることは我々にとっても大きな喜びです。

臨床研修プログラム
責任者
第二消化器内科部長

大場 信之

出身大学／昭和大学



当院は実践重視です。上級医のサポート上で自発的な研修ができ、自分なりのスタイルがある医師を目指しています。

病床数が400床レベルの病院としては、

研修医と上級医との距離が近く医師以外の医療スタッフも身近な存在で研修医をサポートしています。また診療科同士の垣根が低く診療科間のコミュニケーションが良い事も特徴です。このため当該科での疑問や困った症例がある場合には診療依頼はもちろん、医局内でも気軽に相談が出来ます。

また実際経験する症例数が多く技術も習得出来ていると好評です。1学年5名と少数にしており一人あたりの担当症例数が十分確保でき手技を経験する機会も沢山得られる体制をとっています。全体研修として各

科からのレクチャーやシミュレーション器具を使用した実技指導を実施しており診療知識と技術を学べます。

研修プログラムは将来の目標に合わせて2年次の選択期間を長く設けています。さらに2年次になってからも選択希望があれば配慮変更し自由度の高いプログラムになっています。

以上が当院の特徴です。ここに来て共に楽しい2年間の研修生活を始め、歩んでいきましょう。

第二外科部長

皆川 正己

出身大学／筑波大学



外科は、消化器外科、内分泌外科、血管外科、呼吸器外科、肝・胆・膵外科など広範囲に及ぶため、都心の病院では、症例の偏りが見られる場合があります。当院外科

では、食道、胃、大腸、肝胆膵、血管、肺、乳腺、そしてヘルニア、痔と広範囲の手術をまんべんなく実施しており、それぞれ専門医がその時代の最先端の手術、治療法を行っています。また、消化管穿孔、虫垂炎、イレウスなどの緊急手術も数多く実施しています。外科の研修では、チームの一人として、術前診断、手術、術後管理を実際に指導医と共に、広範囲に及ぶ外科の知識、そして結紮、縫合、カテーテル挿入などの基本手技を学びます。朝のカンファレンスでは受け持ち症例のプレゼンテーショ

ンを行います。2年目の外科研修では、ヘルニア、虫垂炎、などの小手術を実際の術者として経験します。医師として初期の段階で、広範囲の知識、手技を身につけることは極めて重要であり、当院ではそれが可能であると思います。

将来、外科を選択される人のみならず、他科を選ぶ方にとっても有意義な研修になるよう外科スタッフ全員でサポートさせて頂きたいと考えております。

麻酔科部長

本多 信雅

出身大学／昭和大学



当院では麻酔科研修は1年時に必修研修として2ヶ月間行うことになっています。麻酔科では手術中の全身管理を中心とした

周術期管理を学ぶことができます。2ヶ月の短期間に臨床医として必要なレベルの気道確保の手技を身に付けるために、集中的に多数の症例を経験できることが最大の特徴です。また、研修期間中には必ず大きな全身状態の変動を経験し、指導者の下で急性期管理を実際に経験し、重症患者管理の基本を学ぶことができます。侵襲的な臨床手技、中心静脈穿刺、腰椎クモ膜下腔穿刺、観血的動脈路確保についても指導者のもとで実際に経験し、基本的な知識を身に付け

ることができます。

また、2年時の選択研修ではさらに進んだ内容となります。術前診察、患者への説明同意、麻酔計画の立案など麻酔科専門医を目指す上での基礎的な考え方や診療技術を学びます。1年時には行わなかった硬膜外麻酔や抹消神経ブロックなどの高度な手技も経験していきます。

救急科部長

田中 俊生

出身大学／昭和大学



当院の救急研修は内科救急・外科救急・脳卒中関連の3系統に分かれて研修します。上級医とともに診察しますが、まずは研修医によるFirst touchです。自分で患者さんから情報をとり、どんな疾患を疑ってどんな検査を行いたいのかをプレゼンしてもらいます。自分で検査を指示し、自分の方針や治療

法を出してもらいます。

救急は、縦割りの科であり、対応する科も多岐にわたります。呼吸不全やくも膜下出血・急性大動脈解離などのように、急激に悪化し死亡にいたる疾患も多く、迅速性と正確さが求められます。これはすぐに養える力ではなく、日々の学習と経験を積み重ねていくことしかありません。「この患者さんは帰していいのかな?」「この患者さん何かおかしくない?」などの感覚や嗅覚はこんな積み重ねからのみ作られていくと思います。特に外科系・救急系は手技が熟練していなければなりません。頭で「挿管して、胸腔ドレーン入れて、CVラインとって人工心肺を回して…」と分かっている、その挿管が、そのCVラインが実際の救

急外来の場面では難しいのです。救急外来ではより多くの患者さんと疾患を経験してもらいたいと思います。自分こそがこの人を救うんだという覚悟をもって、どんどん顔と手と口を出していつてほしいと思います。

救急では 昭和大学や日赤医療センターなどとも協力して、脳卒中初期治療コース (ISLS)・蘇生トレーニングコース (ICLS)・外傷初期診療コース (JATEC / JPTEC)・災害訓練コース (エマルゴ)などもOff the Dutyで受講することも可能です。

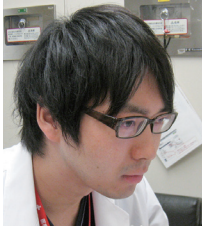
当院の初期研修の売りである少人数研修です。やる気のある研修医の先生への協力は惜しみません。当院とともに救急医療を実践しましょう!

Message from clinical trainee doctor

初期臨床研修医
(平成29年度)

田中 亮

出身大学／千葉大学



まず始めに、当院で医者としての土台である初期研修を行って本当に良かったと思っています。

その理由は以下の3点あります。

1つ目は、各科の先生方との距離が近い点

です。先生方との距離が近いと、とても質問しやすく疑問点をすぐに解決しやすく日々成長を実感することができました。また、仕事終わりに進路相談などで食事に連れてってもらえるなどプライベートでもお世話になりました。

2つ目に、学術面です。当院では学会発表や抄読会などの学術活動にも積極的であり、研修医の人数が5人と限られていることも相まって1人1人に発表の機会が与えられています。私もパワポの作り方から一から丁寧に、そして時に厳しく指導され、1年間で呼吸器内科地方会、日本内科地方会、院内発表

など数多くの機会を頂きました。

最後に、研修医を育てようとする熱意がドクターのみならず、コメディカルを含め院内全体から感じられる点です。日々色々な方に支えられて、そして時に自分も支え合う一員となることで患者中心の医療という理想に向かって邁進していています。

ぜひ一度でいいから見学にいらしてみても当院の雰囲気を感じてみてください。初期研修はどこでやるかではなく、何をするかだと私は考えています。お待ちしております。

初期臨床研修医
(平成29年度)

落合 玲央奈

出身大学／産業医科大学



こんにちは！

私は東京出身で、中高時代まで主に都内で過ごし、大学は福岡の産業医科大学に進学し

ました。卒後は実家の近くで働きたいと考えていた中、数ある病院から東京労災病院を選んだ1番の理由は、病院見学の際に医師やコメディカルのみなさんが温かく、生き生きと働かれていたからです。その印象は入職後も変わる事はありませんでした。時には手術でとても忙しい日があったり、時にはカンファレンスでの発表に追われる日もありますが、毎日とても充実しています。どの診療科でも基本的には指導医の先生と一緒に行動し、二人三脚で患者様の診療にあたります。研修医

でありながら非常に多くの事を経験させてくれる素敵な病院です。

研修医は1学年5人と少ないですが、だからこそポリクリ班のようにお互いを思いやり、刺激し合いながら過ごす事が出来ています。

卒業したての最もエネルギーが溢れる初期研修の2年間でどう過ごすかは自分の医者人生に大きく影響すると思いますが、東京労災病院を選んで後悔はしないんじゃないかと思っています。是非一度見学に来て頂けたら嬉しいです。

初期臨床研修医
(平成28年度)

川神 智

出身大学／高知大学



私はもう一度初期研修先を選べると言われても必ず当院を選ぶと思います。その理由としては、まず、1学年5人であるので、どの科の先生方も自分たちを認識して下さっており、いつでも相談しやすい環境にあります。また手技も積極的に、指導医の先生の目の届くと

ころで行うことができ、2年目になるとさらに高度な手技を行うこともできます。基本的に同期と同じ科を同時に回ることもないので、症例の取り扱いもなく、豊富な症例をしっかりと勉強することができます。程良い人数であり、先生方の目も行き届きやすいため、オーバーワークにもなりにくく、しっかりオンオフもつけて働くこともできます。また、当院のプログラムは非常に自由度が高く、大学病院の3次救急に研修に行くこともできます。様々な科目を回るもよし、決めた志望科を多く回るのもよし、自分に合ったプログラム編成が可能です。学会発表や論文作成の指導に不安を感じる方もいるかもしれませんが

が、当院は先生方との距離も近く、時には部長先生まで直接手厚い指導をして頂けます。地方会はもちろん、日本と名のつく学会で賞を頂くこともできます。様々な大学の先生が集まっており、医局の雰囲気もアットホームで学閥などももちろんありません。労災病院なので福利厚生も充実しています。私事ですが、非常に充実した研修をさせて頂き、そのまま当院の整形外科で働かせて頂いております。1度見学に足を運んで頂き、東京労災病院の研修を、肌で感じて頂けると幸いです。お待ちしております。

募集要項

- 募集人員 5人
- 研修期間 2年間
- 応募資格 翌年の医師国家試験受験予定者
- 応募方法 ①研修医申請書、②履歴書、③卒業（見込）証明書、④成績証明書
※応募者は、応募前に病院見学を行ってください。
※①及び②の様式については、当院ホームページからダウンロードしてください。
<http://www.tokyoh.johas.go.jp/recruit/kenshu.html>
- 試験日 毎年7月下旬から8月中旬までの2日間を設定
※希望する試験日を選択できます。
- 選考方法 小論文及び面接

主な出身大学

日本医科大学 東北大学 筑波大学 産業医科大学 群馬大学 山口大学 千葉大学 長崎大学 高知大学 旭川医科大学 弘前大学 福島県立医科大学 横浜市立大学 東京女子医科大学 順天堂大学

処遇

- 研修手当 1年次 : 329,600円/月*1
1年次賞与 : 130,000円
2年次 : 395,700円/月*1
2年次賞与 : 173,000円
(*1) 当直手当等の諸手当を含んだ額（当直月4回とした場合）
- 処遇に関する備考：
基本給（1年次）290,000円（2年次）326,000円
賞与は年2回、一時金として支給（平成28年度実績）
- 社会保険・労働保険 公的医療保険あり、公的年金保険あり、労働者災害補償保険あり
- 医師賠償責任保険の扱い 病院自体の加入あり、個人加入は不要。
- 宿舎 単身用宿舎：あり
（ワンルームマンション形式・冷暖房完備・トイレ一体型ユニットバス・駐車場有料）
宿舎費（単身用）：約17,000円/月額
宿舎と病院の距離：50m
移動手段と所要時間：徒歩1分
世帯用宿舎：なし

当院の研修プログラムの特色

●医師としてスタートする最初の2年間

医学教育の新しい考え方として、「アウトカム基盤型教育」が提唱されています。これは、まずどういう医者を目指すのか、という青写真を作り、そのために必要な行動目標を設定していく方法です。医学的な知識・技術、医療人としての態度は測定可能で評価しやすいものですが、我々が最も重視するのは「医師としてのプロフェッショナルリズム」です。最初の2年間でプロフェッショナルリズムが完成されるわけではありませんが、どういう医師になるのか、その基礎を形成するのはこの時期なのです。

●研修医一人一人の存在の大きさ

当院の研修プログラムの最大の特徴は、同一診療科に同時に複数の研修医がローテーションしないように配慮する点です。研修医の数が多くどうしても複数の研修医が同時に同じ科をまわるため、一人一人の存在意義が薄れがちです。当院では、指導医、上級医の目が常に一人の研修医に注がれ、

手厚く指導を受けることができます。その結果、多くの症例や手技を学ぶ機会が増え、医師としての責任感も自然に養われます。

●当直の回数は多い方がよいのでしょうか？

当院の当直は内科・外科系・脳卒中センター（脳外科と神経内科）・産婦人科・ICUの5名と研修医1名です。研修医はそのときのローテーションしている科にあわせて、内科・外科系・脳卒中のいずれかの当直にあたります。平均して平日が月に3回、土日が1回程度です。希望すれば回数を増やすこともできますが、あまり回数を増やすことは勧められません。研修医の健康面への配慮し、当直明け日は午前中のみ勤務としています。

●オリエンテーション、院内行事、学会などでの発表

研修開始の初めの1週間はオリエンテーションです。病院内のルール、感染対策、安全対策、電子カルテの使い方、カルテの

書き方などの説明と共に、メンタルヘルスの話、看護師や薬剤師など他の職種からの話などを聴きます。

研修医ミーティングを毎週金曜日16時から行っています。内容は各診療科医師からのレクチャー、インシデントや問題点の報告、連絡事項などです。毎月最終火曜日は内科カンファレンスの中で、研修医がスライドを用いて症例のプレゼンを行い、勉強した内容をまとめています。年度末には、研修医の研究発表会を行い、多くの医師が研修医の発表を評価し、優秀者は表彰されます。また、2年間の研修中に最低1回は学会での報告をおこなってもらっていますが、2回、3回と発表の機会に恵まれる研修医がいるのも、少人数制の特徴だと思います。その他、月1回のCPC、放射線カンファレンス、安全対策や感染対策の院内研修などに研修医は出席を義務づけられています。

●具体的なプログラムについて

【ローテーションの例】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科必修 (循環器科) 1.5ヵ月	内科必修 (呼吸器内科) 1.5ヵ月	内科必修 (消化器内科) 1.5ヵ月	外科 2ヵ月	内科選択 1.5ヵ月	麻酔科 2ヵ月	精神科 1ヵ月	救急科 1ヵ月				
2年次	産婦人科 0.5ヵ月	小児科 0.5ヵ月	地域医療 1ヵ月	選択研修 10ヵ月								

①内科研修

内科6ヵ月間は1年目の必修で、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科を各1.5ヵ月ずつ、そして内科選択（糖尿病内分泌内科、腎臓代謝内科、神経内科の中から1科を選択）1.5ヵ月をまわります。

②救急研修

1ヵ月間は救急科専属の研修、2ヵ月間は麻酔科の研修をします。当院の特徴は、2年間を通して、救急当番を行うことです。これは平日半日を1コマとして、1年次は週に2コマ、2年次は週に1コマ、各科の上級医とともに、全科の救急患者の初期診療にあたる研修です。1年目の前半と2年目の後半では医師としての実力もずいぶん異なりますので、2年間を通して救急診療にあたることで、自分の進歩を実感す

ることができます。

③その他の必修研修

当院では将来どの科を選択するにしても必要と考えられる、外科（2ヵ月間）、精神科（1ヵ月間）、産科（0.5ヵ月間）、小児科（0.5ヵ月間）は必修としています。短期間であっても、それらの科の経験があるかどうかは、医師としてのプロフェッショナルリズムを身につける上で重要だと考えるからです。精神科は当院では入院症例が少ないため、協力病院である東邦大学医療センター大森病院で研修を行います。

④地域医療研修

地域医療研修の意義を正しく理解していない研修プログラムが多いようです。当院でも試行錯誤をしてきましたが、労災病院

グループの強みを生かし、25年度からは富山労災病院での研修を行っています。1ヵ月間宿舎に泊まり込んで、東京では経験できない地域医療を経験することは、医師としての見識を高めるものと確信しています。地方に1ヵ月間滞在するのはちょっと…という研修医には大田区内の開業医のところで、研修をしてもらいます。

⑤東邦大学医療センターでの研修

協力病院である東邦大学医療センター（大森病院、大橋病院）での選択研修が可能です。原則として、精神科や地域医療研修の期間を除き、計3ヵ月間までの協力病院での研修が可能です。当院では経験できない3次救急などを選択する研修医が多いようです。大森病院は当院から近く、通勤も便利です。

申込
・
連絡先

〒143-0013 東京都大田区大森南 4-13-21

東京労災病院 総務課 臨床研修係

Tel : 03-3742-7301

Fax : 03-3744-9310

E-mail : info@tokyoh.johas.go.jp